

令和7年司法試験 合格体験記

令和7年度在学中受験(既修コース) 石倉 秀将

岡山大学法学部から、岡山大学法科大学院に進学し、令和7年の司法試験に合格した石倉秀将です。以下に司法試験の勉強法について記載しますので、参考にしてください。

まず、論文対策についてです。本番では、複雑な事実関係やよくわからない応用問題に時間をかけ、基本問題はすぐに処理したいと思いました。そのために、論文の基本問題集を繰り返し解き、典型論点が出題された場合には、答案の型、規範、あてはめの方法をすぐに想起し、短時間で答案をかけることを目指しました。その後、過去問を解き、応用問題の答案の書き方や誘導に乗って書く方法を練習しました。実際に、本番でいい評価が付いた科目は、問題文や問いの誘導に従い、基本的な知識や思考の流れで答案を書いた科目でした。

問題演習と並行して、論証集に記載されている論点を網羅的に理解・記憶し、基本的には何が出ても大丈夫だと思える状態を目指しました。上記問題演習やテキストのインプットの過程で、わからない部分について基本書や判例集を読みました。

基本的には全科目でAをとる意識で勉強するのをおすすめします。多少ミスしても、Bでとどまったり、2～3科目かなり失敗した科目があったりしても合格ラインには入ると思います。本番では緊張したり、体調がすぐれなかったり、周りが気になったりして、いつもよりうまくできないことが通常だと思いますので、余裕をもった対策をすることをおすすめします。

できる限り毎日、これは勉強する(短答、論文を何問解く、論証集何ページ分覚える)というものを決めていて、それができればとりあえずOKというふうに行っていると、焦りや不安が軽減し、着実に学力が上がりました。

司法試験は、上位の法学部や法科大学院に在籍している受験生や長時間ずっと勉強している人でないと合格できないのではないかと思われがちです。しかし、法科大学院生活を送りながら、適切な試験対策を継続することで、余裕をもってほとんど確実に合格することができると思いますので、心身の健康に留意し、学習を続けていただければと思います。